

502) オシッコ

男というものは、いくつになっても大人になりきれないところが或るものでして、特に子供の頃に体験した男だけの遊びには、無性に回帰意識が高まるものなのであります。先日平塚という湘南の町に行ったときのことであります。幸いその時は私一人だったのですが、無性にオシッコがしたくなって適当な場所を探していました。馬入川の河口には大きな橋が架かっているのですが、この橋の上にさしかかったとき、ふと悪い夢を見てしまったのです。ここから下をめがけてオシッコをしたらきっと気持ち良いだろうな一てな夢を。しかもオシッコがどれだけ遠くに飛ぶかということは、男にとってはどこの大学を出たかと言うことよりも、ずっと大事なことなのであります。オシッコ飛ばしに勝った者こそ英雄になることができるのです。だからこの年になって、どの辺まで飛ぶだろうかと言うことも、確かめてみたくなってしまったのであります。そして人のいないところを見はからって実施に移ったのであります。ところがです。悪いことはしてはいけないものです。この橋はかなり高いところに架かっているのですが、オシッコは風にあおられて下に落ちないのであります。落ちないどころか飛沫になって何と顔にかかってしまうのです。オシッコ飛ばしの夢は無惨にも打ち砕かれて、我輩は自分のオシッコで顔を洗う経験を、生まれて初めてしたのであります。